

数 学

1 構 成 員

	平成 13 年 3 月 31 日現在
教授	1 人
助教授	0 人
助手（うち病院籍）	0 人（人）
大学院学生（うち他講座から）	0 人（人）
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技官	0 人
その他（技術補佐員等）	0 人
合計	1 人

2 教官の異動状況

野田 明男（教授）（期間中現職）

3 研究業績

	平成 12 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1 編（1 編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0 編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編（編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編（編）
(6) 国際学会発表数	0 編

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 野田明男：カード・ゲームの数理ノート；「神経衰弱」における戦略について
浜松医科大学紀要 15:1-18, 2001

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

（6）国際学会発表

4 特許等の出願状況

	平成 12 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 12 年度
（1）文部省科学研究費	0 件 （ 万円）
（2）厚生省科学研究費	0 件 （ 万円）
（3）他政府機関による研究助成	0 件 （ 万円）
（4）財団助成金	0 件 （ 万円）
（5）受託研究または共同研究	0 件 （ 万円）
（6）奨学寄附金その他（民間より）	1 件 （ 15 万円）

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	平成 12 年度
（1）特別講演・招待講演回数	0 件
（2）国際・国内シンポジウム発表数	0 件
（3）学会座長回数	0 件
（4）学会開催回数	0 件
（5）学会役員等回数	0 件

8 学術雑誌の編集への貢献

	平成 12 年度
学術雑誌編集数	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 12 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 12 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞（学会賞等）

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

カード・ゲームにおける戦略の数理

M.Gardner の諸作に魅せられて、離散型確率のいろいろな問題に取り組み、授業などの場で話を展開している。特に、単純なルールのため好んで遊んだ経験をもつ子供向けのカード・ゲーム（神経衰弱、ババ抜き、7並べ等）は、カードのランダムな選択という確率計算の枠組みによって、なかなか奥の深い面を示す。これらのゲーム戦略の最適解を追求すべく、研究の第一段階として、神経衰弱における2通りの純粋戦略を取りあげ、獲得枚数の期待値が満たす定差方程式をそれぞれ解くことに成功した。（野田明男）

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

研究成果概要で述べたように、子供向けのカード・ゲームに伴う確率問題に目を留め、ゲームの最適戦略を追求する方向で、研究を継続し深めて行くことは、意義ある仕事になるだろうと期待する。また、いろいろな民族によるゲームの数理を調査・研究することは、興味をもつ人類学との接点を探ることにつながって行く。

15 新聞、雑誌等による報道